

令和6年第2回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

3月13日(水) 午前10時～	1	栗山尚記	議員	(30分)
	2	宮野和秀	議員	(60分)
	3	湯瀬誠喜	議員	(45分)
	4	丸岡孝文	議員	(30分)
3月14日(木) 午前10時～	5	金澤大輔	議員	(60分)
	6	成田哲男	議員	(30分)
	7	湯瀬弘充	議員	(30分)

□質問時間割当表

10:00	10:30	10:40	11:40	13:00	13:45	13:55	14:25
3月13日 (水)	栗山尚記 (30分)	休憩 10分間	宮野和秀 (60分)	休憩	湯瀬誠喜 (45分)	休憩 10分間	丸岡孝文 (30分)

10:00	11:00	11:10	11:40	12:10
3月14日 (木)	金澤大輔 (60分)	休憩 10分間	成田哲男 (30分)	湯瀬弘充 (30分)

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	1	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	30分
質問事項			質問要旨		
1	災害対応について		<p>(1) 災害想定について</p> <p>① 2011年3月11日東日本大震災、2024年1月1日能登半島地震発生と、想定を超えた大災害を受け復興に大きな困難をきたしている。地震自体を防ぐことは不可能だが、最悪の災害規模を想定し、それに備えることにより、減災効果や復興対応の即時性は大きく違ってくると考える。現状、直下に花輪東断層帯が存在する鹿角市は、どの程度の規模と気象条件下での災害を想定しているのか伺う。</p> <p>(2) 今後の対応について</p> <p>① 日々報道されている能登半島地震の災害対応状況を見受け、孤立集落への支援の遅れ、道路網破壊によるあらゆる移動の困難、停電・断水による避難生活住民の困難、寒冷期の災害による低体温症をはじめとした被災者の命の危機、2次避難対応の遅れによる即時救済の混乱等々、挙げればきりがなほ多く不安を感じている。市民の命を守り、大災害時における最大限で最良の対応を実現するためにも、現状の計画やルールを大きく見直し準備する必要があると考えるが、これらについて伺う。</p>		
2	子育て環境について		<p>(1) 学校給食費無償化について</p> <p>① 厚生労働省の統計速報値によると、2023年の全国出生数は過去最少の75万8,631人、秋田県は3,907人と出生数減少は政府想定を12年早いペースで進み、危機的状況を迎えている。多種多様な少子化対策が求められている中、人口が集中している首都圏でさえ教育機関での子育て負担の軽減が手厚く図られている。さらには近隣の青森県全域や秋田県内複数の自治体で、学校給食の無償化や計画実行されている。もはや学校給食無償化は、少子化対策を本気で進める自治体にとって必須施策となってきている。「人口構造の若返り」を最重要課題として本市において、学校給食無償化は即急に取り組むべき施策と捉えるが、考えを伺う。</p>		

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	1	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
(2) 大湯保育園について				① 令和6年度をもって大湯地区唯一の保育園が閉園となる計画である。家庭での保育が困難な方々のためにあるべき施設が生活エリアから消えてしまうことは、少子化を増々進めてしまう大きな負の要因となる。出産可能な医療施設が無くなり、出生数が加速的に減少してきている本市において、これ以上、負の要因を増やすべきではないと強く思う。小規模保育園に対するルール改正がされた現状下、行政が本気で計画実行すれば、存続の可能性は大きく、その価値は決して投げ出しはけないものだと思う。残された時間は少ない。運営体制とスタッフが現存している今だからこそ、大湯保育園存続に向けた思い切った計画変更が必要と考えるが、これについて伺う。	
3 ふるさと納税について				① 2023年度当初、2億5,000万円の歳入予算を立てた「ふるさと納税」は補正予算を何度も追加するほど着実に数字を伸ばしてきているが、大館市で返礼品の在庫不足により発送が困難になるなど、他自治体では多種多様な問題が起きている。本市においてもルール改正後の納税額の伸び率が減速化したとの報告を受けているが、2023年度のふるさと納税運営における現状の問題点について伺う。	
(1) 現状の問題点について				① 「ふるさと納税」は地方自治体にとって、取り組み方次第で短期間に飛躍的に歳入を伸ばせる可能性を持った画期的なシステムだと思う。自治体間で激しい競争が続く中、返礼品の内容以外にも人材採用や現地での自販機による即日納付等々、様々な創意工夫により大きな成果を上げている事例もある。企業版ふるさと納税（人材派遣型）をはじめ、本市に不足しているシステムも残されている。自主財源に乏しい本市としては、あらゆる手段を全力で駆使し、好機を逃がさない取り組みが必須と思うが、今後について伺う。	
(2) 今後の取り組みについて				① 「ふるさと納税」は地方自治体にとって、取り組み方次第で短期間に飛躍的に歳入を伸ばせる可能性を持った画期的なシステムだと思う。自治体間で激しい競争が続く中、返礼品の内容以外にも人材採用や現地での自販機による即日納付等々、様々な創意工夫により大きな成果を上げている事例もある。企業版ふるさと納税（人材派遣型）をはじめ、本市に不足しているシステムも残されている。自主財源に乏しい本市としては、あらゆる手段を全力で駆使し、好機を逃がさない取り組みが必須と思うが、今後について伺う。	

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	宮野 和秀	質問所要時間	60分
質問事項			質問要旨		
1		市長の市政運営について		① 第7次総合計画前期基本計画の暮らしを守る5つの基本戦略と都市経営の視点で改める3つの経営戦略について、今年度の総評と、来年度、最重要と位置づけている事業について伺う。	
2		地球温暖化対策実行計画について		① 2030ゼロ・カーボンシティを目指すために取り組んでいる地球温暖化対策実行計画の今年度の事業実施状況とその成果をどのように見込んでいるか。また、来年度はさらに具体的な事業実施により進捗を図るものと思うが、その内容について伺う。また、2030年まで残すところ7年となるが、目標達成のための計画の見通しと進捗状況について伺う。	
3		再生可能エネルギーについて		① 再生可能エネルギー電力自給率が300%を超える資源を有する本市において、発電所は2030ゼロ・カーボンシティの達成のためには必要不可欠な設備だが、さらなる建設の見通しについて伺う。 また、建設が必要と考えている場合、市としてどのような働きかけや支援のための取り組みができるのか伺う。 あわせて、秋田県（能代市）沖では、洋上風力発電が一部稼働しているが、本市と関係性があればその内容について伺う。	
4		省エネ設備更新支援について		① 今年度の実施状況及び省エネ設備への更新がもたらす効果と2030ゼロ・カーボンシティ宣言との関係性をどのように捉えているか伺う。	
5		かづのパワーについて		① 令和元年度の設立以来、電源価格高騰のあおりを受けるなどしてきたが、現在の経営状況と顧客数の推移について伺う。 また、現在、比較的安定している電気料金について、その要因と今後の経営計画、さらに地域電力であるかづのパワーが電力の小売り以外で担うことができる新たな役割と、その実現の可能性を伺う。	

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	宮野 和秀	質問所要時間	60分
質問事項			質問要旨		
6		森林環境譲与税を活用した森林整備について		<p>① ゼロカーボンの達成にも大きく関わる施策であり、今年度の取組状況と、来年度以降の見通しを伺う。</p> <p>また、令和元年から令和5年までの森林環境譲与税を財源とした事業と予算の執行状況を伺う。</p>	
7		「世紀越えトンネル」建設促進について		<p>① 本市議会と田子町議会で組織している世紀越えトンネル建設加速化市町議会協議会が発足して10年となる。これまで「世紀越えトンネル」の必要性や地域住民向けのフォーラムの開催、国や県、国会議員、県議会議員への要望活動など精力的に取り組んできている。</p> <p>今年度も10月25日にホテル鹿角において全体会を開催し、11月22日に青森県知事、1月18日には秋田県知事への要望活動、さらに1月30日から31日にかけて国土交通省と国会議員に対し要望活動を行っている。</p> <p>国道104号の秋田・青森の県境部は迂回状の線形、急勾配、急カーブが連続しており、さらには冬期の降雪や凍結等により、安全な交通環境が確保されておらず、近隣市町村とのアクセスに非常に時間がかかっている。「世紀越えトンネル」が実現すれば、日本海側と太平洋側を最短で結ぶ横断軸が完成し、観光面などでも大きな経済効果が期待できる。加えて、北東北三県の中央に位置する鹿角市と田子町はもちろん、北東北の経済圏全体への経済波及効果が生じ、圏域全体が大きく活性化していくことが期待される。</p> <p>平成30年度から秋田・青森両県では調査費を計上し、現在も交通量調査などが実施されているが、今年度はこれまでの活動が実り、国土交通省東北地方整備局からは、今後の建設計画について、秋田・青森両県からのヒアリングを実施する予定との説明があり、建設の実現に向けて一歩前進したと感じている。</p> <p>このことから、鹿角市としても、秋田県との交渉を密にし、計画の前進に向け取り組む必要があると思うが、市長の考えを伺う。</p>	
8		かづの観光物産公社について		<p>① かづの観光物産公社を市長はどのようにしたいと考えているのか。また、同社が果たす役割をどのように捉え、それに向けてどのような施策を講じていくのか伺う。</p>	

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	2	質問者	宮野 和秀	質問所要時間	60分	
質問事項				質問要旨		
9		少人数保育園新設について（大湯温泉地区）		<p>① 令和6年度をもって大湯保育園が閉園となるが、同園の保育方針は、特に保護者からの評判がよい。閉園は非常に残念との声が多く、継続を希望する相談も数多く寄せられている。</p> <p>大湯地区は、移住者が増えてきており、市外から子供たちと移住してきた夫婦は、大湯保育園の閉園にショックを受けていた。このほかにも、保育園のある地区に引っ越しを検討している世帯や市外から大湯地区へ移住を検討していたが移住を断念したなど、閉園は地域にとって大きな影響を与えており、大湯温泉地区での保育園必要性を克明に物語っている。</p> <p>本市の人口は、2050年には1万5,000人との推計が出ているが、大湯温泉郷においては、今後の交通インフラの整備次第では繁栄していく素地を有しており、そのためにも保育園はなくしてはいけないと考えるが、少人数保育園の導入も含め、市の考えを伺う。</p>		
10		自分の命を守る防災について		<p>① 米代川、大湯川支流部は、過度な森林の伐採や土砂崩れ等により、森林の保水力が極度に低下しているため、線状降水帯などによる大雨が降る場合は、災害発生リスクが急激に高まる。そこで求められるのは、早急かつ的確な情報の発信や地域ごとの避難場所の確保、自分の命を自分で守る行動である。このような考え方が市民に十分に浸透しているか、また、災害弱者にはどのような対策が取られているのか伺う。</p> <p>あわせて、各被災地で課題となっている、「災害関連死審査会」の設置について、市ではどのように考えているのか伺う。</p>		

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	2	質問者	宮野 和秀	質問所要時間	60分
質問事項				質問要旨	
11 畜産農家・酪農家への支援について	<p>① 畜産農家を取り巻く環境は、飼料の高騰、子牛取引価格の低下、枝肉販売価格の下落の三重苦の状況となっている。現在、配合飼料価格安定制度により高騰した配合飼料価格については補填金が交付され、生産者の負担は一定程度緩和されているが、高額な補填金交付が継続しているため、その財源確保が課題となっている。また、同制度は該当四半期の配合飼料価格が、直近1年間の配合飼料価格を超える場合、その額を限度に補填金が支払われるため、配合飼料価格が一定の高値のまま推移すると、補填金が十分に支払われないことになる。</p> <p>政府においては、これまでも補填金の発動基準の引き下げや、基金への積み増し等の施策を講じているが、それでも国内の畜産農家の実質負担額は増加しており、畜産経営の急激な悪化が危惧されていることから、価格高騰の影響を可能な限り緩和し、畜産農家の負担を軽減するよう支援できないか伺う。</p> <p>あわせて、酪農に関しては、飼料高に加え、種付け費用も負担となっているが、雄の子牛はその価値が2～3万円と低く、また、雌牛の出産を目的とした種付けにかかる費用は値上がりしている状況であるため、種付けに対する支援ができないか伺う。</p>				
12 下川原トゲウオ生息地について (鹿角市指定天然記念物)	<p>① 下川原トゲウオ生息地は、昭和52年2月4日に市の天然記念物に指定されて以降、47年が経過している。この間、教育委員会や地域住民、米代川源流自然の会で環境整備を行っており、昨年9月、3年ぶりに環境整備と生息調査を実施した。肝腎のトミヨ、イバラトミヨの生息数は非常に少なく、一方でドジョウなどの外来魚や外来種の水草の繁殖を確認しており、近い将来、本来の生態系が失われるおそれのある危機的状況となっている。</p> <p>市の宝であり、環境保全の象徴であるトゲウオの生息地及びトミヨ、イバラトミヨを守っていくため、本来あるべき自然の姿を取り戻す取組が必要と考えるが、市の考えを伺う。</p>				
13 鳥獣被害について	<p>① 本市における有害鳥獣の種類をどれくらい把握しているか。また、それぞれの被害と駆除の状況、対策について伺う。</p> <p>あわせて、駆除した後に処理する設備や埋葬等をする場所なども必要と考えるが、市の考えを伺う。</p>				

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	3	質問者	湯瀬 誠喜	質問所要時間	45分
質問事項			質問要旨		
1		スポーツによるまちづくりについて		<p>① 来年、本市で国民スポーツ大会が開催されるが、今まで毎年のように全国規模の大会が開催され成功を収めてきた。 大会成功に欠かせないのが大会役員であるが、役員の高齢化等による人員不足で大変難儀している。少しでも負担を少なくするためにも設備や施設の整備が必要と思われ、クロカン・アルペン・ジャンプそれぞれから要望等があったと思うが、どのような内容で、どのように対処しているのか伺う。また今後の設備改修等の計画はあるのか伺う。</p> <p>② 競技を続ける選手も、現役を引退する選手も県外に拠点を移す選手が多くいる。今後、選手も指導者も少なくなってくる状況にあるため、選手層の拡大や選手強化のためにも市役所内にそのような人材を活用する専門の部署を設けるなどの考えはないか伺う。</p>	
2		大湯環状列石の方向性や基本方針について		<p>① 昨年9月に県から県道移設ルート案の概略が提示され、遺跡の南東側に迂回するとあるが、具体的にはどのようなルートになるのか詳細を伺う。また、提示されたルートには市の考えは反映されたのか伺う。</p> <p>② 今年度の市民アンケート結果では、過去に訪れたことがある人の割合は74.7%であったが、1年以内に訪れた割合は27.9%と3割未満に留まっている。リピーターを増やす意味でも売店や飲食スペースを望む声も多かったと聞く。まずは市民が興味を持ち、足を運んでもらうことが大事だと思うが考えを伺う。</p>	
3		部活動の地域移行について		<p>① 部活動の地域移行に当たって、指導者の確保や休日の活動、保護者の負担等多くの課題があると思うが、現在の状況と今後の取り組みについて伺う。</p>	

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	3	質問者	湯瀬 誠喜	質問所要時間	45分
質問事項			質問要旨		
4		除雪委託業者への補償について		① 今年は降雪も少なく、除雪を請け負う業者にとっては経営的に厳しい冬になっていると思うが、市の委託業者への保証について伺う。また、執行されなかった除雪予算について別の用途を考えているか伺う。	
5		市長の第7次総合計画に対する自己評価と来年度の目標について		① 第7次総合計画で5つの基本戦略と3つの経営戦略を掲げているが、市長になってからの2年7か月の自己評価と来年度一番力を入れる事業等について伺う。	

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30分
質問事項			質問要旨		
1		この冬の暖冬による影響について	① 市内の産業への影響と地域賃金について伺う。		
2		スキーの全国規模大会や各種競技の受け入れと成果について	① 国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会や全日本学生スキー大会などの近年の開催会場が鹿角となった経緯について伺う。 ② 国・県からの補助金の使途について伺う。 ③ 大会役員の不足について対策を伺う。 ④ 宿泊業、仕出し業以外の業種にどれくらい地域の賑わいの創出が波及されているのかを伺う。		
3		「スキーと駅伝のまち」について	① 「スキーと駅伝のまち」とは競技に特化した表現なのか伺う。 ② 「スキーと駅伝のまち」の目指すまちの賑わい創出の成果について伺う。 ③ 次年度以降の市内学校でのスキー授業について伺う。		

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60分	
質問事項				質問要旨		
1		ライザップとの連携協定について		<p>① 効果をどのように捉え、今後の取り組みにどう生かしていくのか。また、協定の延長についてはどう考えているのか、今後のビジョンについて伺う。</p> <p>② 6月定例会の一般質問で、この連携を生かしたさらなる事業展開を提案したが、ライザップ側と新たな事業展開についての話し合いの機会は持たれたか伺う。</p>		
2		鹿角高校寮費支援について		<p>① 令和6年度当初予算案に、市外から入学する生徒に対する、寮費・下宿費の支援に係る経費が計上されているが、なぜ陸上部員とスキー部員に限られるのか。その他の生徒には今後どう対応していくのか考えを伺う。</p> <p>② 生徒向けの寮や下宿は市内に何軒あり、何人の受け入れが可能なのか。寮や下宿の開設支援も必要と思うが、考えを伺う。</p>		
3		公社問題について (1) 市長の言う改革とは何か		<p>① 市長の独断による突然の社長解任劇は、市全体を巻き込んだ論争に発展した。市長は「改革が後戻りしないように」など、事あるごとに改革という言葉を主張しているが、肝腎の改革の内容については一度も説明されたことがない。改革とは何なのか。後任も決めず、方向性も示さず、ただ強権的に人事権を振るうことが改革なのか。市長は今後あんとらあをどのように改革していくつもりなのか。また、市長が主張する改革と社長が掲げる改革の内容にずれを感じるが、それぞれの改革の内容をどのように把握しているか伺う。</p>		
		(2) 公社社長をプロテクトすることについて		<p>① かつの物産振興プラザを散々批判の矢面に立たせておきながら、公開質問状には回答しない。また、「今後社長に圧力がかからないように市長として全面的にプロテクトしていく」という発言は、これまでの市長の説明や主張とかけ離れすぎていて理解し難い。何からどのようにプロテクトしていくのか伺う。</p>		

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60分	
質問事項				質問要旨		
(3) 公開質問状への対応について				① 市長は市民との対話・交流を盛んにしているが、公開質問状に対応しなかった理由はどのような考えによるものか伺う。		
(4) 指定管理について				① 市の道の駅の指定管理については、これまで鹿角市のスタンスとして、両道の駅とも基本的に事業者の創意工夫で収益を上げてもらうことを目指し、指定管理料なしとしてきたと理解している。 しかし、令和6年度予算を見ると、道の駅かづのに関しては指定管理料が計上されていないのに対し、道の駅おおゆには1,635万円が計上されている。 同じ道の駅について、一方には指定管理料を新たに計上し、一方には計上しない。この相違について、考えを伺う。		
4 人口減少について				① 本市の人口が2万6,000人台にまで減少した。国立社会保障・人口問題研究所の推計よりも1年早く推移している。自然減と社会減、自然増の伸びが低いことが要因だが、転出による社会減はこの先も増加すると思われる。 進学や就職などで転出する若者と、子育てや仕事が一段落した世代が老後を考え、社会インフラが整った場所に移り住むという動きが加速すると考えられており、このことをどう捉えているか。人口減少対策としてこれまで移住促進政策を重視してきたが、少子化対策と転出者を減らす政策、市民満足度を上げる取り組みも重要と思うが、この3点について考えを伺う。		
5 本市における主権者教育について				① これまでも、子供たちへの主権者教育の重要性や、若者の市政参画を促すための少年議会の必要性などを訴えてきたが、このことに対する理解と受容態勢が整っていないと感じる。つまりは現状の施策では十分ではないと感じている。教育執行方針でも、主権者教育に通じる「地域を担う人材の育成」については具体案が示されていない。 市として主権者教育をどのように捉えているか。必要であるならばどのように取り組んでいくのか考えを伺う。		

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60分	
質問事項				質問要旨		
6		若者の意見をどう捉えるか		<p>① 市民と語る会などで把握した、若者が持つ本市のイメージは、「鹿角市は働く場所がなく賃金が安い」、「家計が厳しく、子供を学校に通わせるのにも苦労しているので学費を市でなんとかしてほしい」、「遊ぶ所も楽しいことも働きたい業種もないから若い人は出ていく」、「産婦人科がないから子供が産めない。だから人口が増えないままどんどん減っている」といったもので、これについてどう思うか。</p> <p>間違ったイメージだと捉えるかの的を射ていると捉えるか。若者からこういう意見が出るということは、身近な大人、すなわち市民が口にしていてと思われるのだが、間違ったイメージだとするならば払拭するアンサーとして政策を発信していかなければならないと思うがどう考えるか。このイメージの持たれ方についてどう捉えるか伺う。</p> <p>② 働く場所がなく、賃金が安いことについてどう考えどのように対処していくのか。また、市内総生産及び人口1人当たり所得額は直近の5年間でどう推移してきているのか。さらには、市民所得向上のために行政は何ができるのか伺う。</p> <p>③ 市民所得向上につながるような企業誘致はどうなっているのか。また、実現されるまで何年かかっているのか伺う。</p> <p>④ 若者が働きたいと思う業種の誘致を考えているとの話もあったが、これまでの実績と進捗状況を伺う。</p> <p>⑤ 家計が厳しく学校に通わせるのにも苦労しているという意見についてどう考えるか。国も異次元の少子化対策を掲げる中、他市町村では給食費無償化や、奨学金返還の一部助成など、子育て支援や少子化対策を打ち出しているが、本市の支援策について伺う。</p>		

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60分
質問事項				質問要旨	
7		行政の役割について			<p>⑥ 遊ぶ所も楽しいこともないから若者が出ていくという意見をどのように捉えるのか。働く場だけではなく、娯楽サービスの誘致も必要ではないか。そして他市町村に比べると、市が主催するイベントは内容、スケール、集客、サービス、発信力、全てにおいて弱いと感じる。企画段階から学生や青年会議所、商工会、ロータリークラブ、市民団体などと連携してみたいかと思うのだが、考えを伺う。</p> <p>⑦ 産婦人科がないから子供が産めないという意見についてどう考えどう対処していくのか。これは間違ったイメージがかなり浸透していると考えますが、大人たちが繰り返し言っているから刷り込まれたのではないかと。安心して出産できる施策を強く発信していく必要があるが、どう考えているか伺う。</p> <p>⑧ ここまで述べてきたようなイメージが強いため若者の流出が止まらない。希望が見えない、持てない場所からはどんどん人が離れていくと思うのだが、こういった学生の声はどう受け取るのか。そして若者の流出をどうするのか。学生や若者の声を政策に反映させる場の必要性を感じるが、市の考えを伺う。</p> <p>① 山積している課題の解決に向けて、鹿角市に足りないものは、新しいシステムとマニュアルではないか。優良な先進事例があり、情報は手に届くところにあるにも関わらず、解決できない課題として残っている。スケールやバックボーンなどの違いは問題ではなく、まず視察などにより学び、それを鹿角市版のシステムに作り直せばいいのではないかと。そうしたことはやられているのか。これまでの取組状況を伺う。</p>

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.5

順位	5	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	60分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
			<p>② 市長は、「行政は時代の要請に応じて必要な役割を果たす使命があるが、行政資源は限られており、市民の多岐にわたる要望に全て応えていくことが難しい時代であり、まちづくりの主体は市民であることの認識のもと、オール鹿角で市政を推進していく」と発言したが、まちづくりの主体が市民であるならば、その市民の意見をどのように施策に反映させているのか、その手法を伺う。また、市長が掲げる透明な市政を実現するために、行政の執行権を私物化しないためのチェックをどのように機能させているのか伺う。</p>		

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30分	
質問事項				質問要旨		
1		2030年カーボンニュートラル達成について		<p>① 地域向け電源導入促進事業で、公募した2か所とも発電業者が決定した。今後、今年7月末までに発電設備を設置することになるようだが、規模や発電量などに制限は設けられるのか伺う。</p> <p>② 同事業について、来年度以降も引き続き募集を行う予定のようだが、2030年までどれくらいの場所を利用し、どれだけの発電量などを確保する予定か伺う。</p> <p>③ バッテリー式電気自動車（BEV）「コムス」を貸し出し、モニター調査が始まったようだが、申請状況や実証報告のデータはあるか伺う。</p> <p>④ 鹿角市地球温暖化対策実行計画では、2030年のEV車の導入目標を5,000台に設定しているようだが、達成に向けてどのように検討しているか伺う。</p>		
2		建設業の働き方改革について		<p>① 県の公共工事が、新年度から災害等の緊急工事を除いて週休2日制に完全移行することになる。本市で入札の不落もある中で、今後の入札、工事の施工などに影響は出てこないか伺う。</p>		
3		鹿角高校について		<p>① 4月から鹿角高校がスタートする。鹿角花輪駅から鹿角高校までの交通手段を確保するとされているが、具体的にどうするのか伺う。</p> <p>② 昨年来、一般質問にも取り上げられている十和田高校の跡地利用について、市の考えを伺う。</p> <p>③ 十和田高校跡地について、校舎以外に、十和田中学校のそばに野球場がある。中学校や一般のチームの練習、各団体の大会などに利用すべきと考えるが、市の考えを伺う。</p>		
4		ドローンの活用について		<p>① 県内でも物流の実用化に向け、ドローンを活用する実証試験が行われている。今後、本市の平時や災害時において、ドローンの利用を検討されているか伺う。</p>		

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	6	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
5		大湯環状列石の保存活用計画について		① 昨年、県から県道移設ルート案が提示され、再来年度から詳細設計、2027年度から工事着手の予定と聞いている。県道移設後の整備事業の概略について伺う。	

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30分
質問事項			質問要旨		
1		<p>出産・子育てを支える環境づくりについて</p> <p>(1) 大湯保育園の存続について</p> <p>(2) 保育園留学について</p> <p>(3) 産婦人科の分娩機能再開について</p>		<p>① 令和6年度以降も大湯地区に保育所を存続して欲しいという声が数多くある。小規模認可保育園の規定が拡充する今、大湯地区の未来を守るためにも市が小規模保育園として運営すべきと思うが、今後の考えを伺う。</p> <p>① 前回の答弁では「子育て世代の移住につながる取り組みの1つとして可能性がある」と回答いただいている。 北秋田市では、昨年12月に県内で初めて家族1組を受け入れ、好評を得ている。昨年9月から募集を開始し、11月までに15件の問い合わせを受けたほか、今年はさらに、7月に1組、8月に2組の受け入れが決まっていると伺った。 このような事業は、先行して実施することでその効果が向上すると考えるが、本市で早期に開始する考えはないか伺う。</p> <p>① 市長が公約で掲げていた産科分娩機能の早期再開について何度も質問しているが、「現在の医療体制が後退しないように取り組んでいく」との答弁に終わってしまう。もし再開が困難なのであれば、現状に合わせた今後の分娩機能に対する市の具体的なビジョンを伺う。</p>	
2		<p>ゼロカーボンシティについて</p> <p>(1) カーボンニュートラルの達成について</p>		<p>① 2030年までのCO2マイナス7.3万トンの目標を達成するため、鹿角市地球温暖化対策実行計画で推進する7つの対策について、現時点での各項目の達成率を伺う。</p>	

令和6年第2回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30分
質問事項				質問要旨	
3 観光資源について (1) 湯の駅おおゆの飲食スペースの見直しについて				② 鹿角市地球温暖化対策実行計画の中で、EV車への切り替えについては市内車両の20%を目標としているが、豪雪地帯である本市では達成可能な数値とは思えない。また、現在、超小型EVコムスを無料で貸し出しモニター調査をしているが、冬季には実用性が感じられない。本気で切り替えるためのモニター調査を行うのであれば、冬季でも実用性があるモニター車両を用意する必要があると考えるが、市の考えを伺う。 ③ 実行計画には中間目標（KPI）などの定めはないが、目標を達成するためには必要な指標と考える。今後、中間目標を設定する考えはないか伺う。 ④ 2030年までに目指す地域脱炭素の姿として、「地域の安定したエネルギーと、地域エネルギーを活用するインフラを整え、グリーン経済が活性化した、暮らしやすく将来性のある町を作り、仕事と人を呼び込みます」としているが、暮らしやすく将来性のある町とは具体的にどういった姿なのか。また、現実的にどのような仕事がどれだけ増え、どれほどの人口増加を期待しているのか、考えと数値目標を伺う。	
				① 飲食スペースが小規模のため、利益を上げることが厳しい現状である。新型コロナウイルスも5類に移行し、観光需要・インバウンド需要もコロナ禍以前を上回ると予想される今、凍結していた飲食スペースの見直し計画を早期に進めなければ、貴重な外貨獲得の機会を取りこぼすことになると思うが、市の考えを伺う。	